

■藤原緒嗣 公卿。桓武天皇に重用され、徳政相論で大事業停止はじめ良吏の代表で、嵯峨上皇時代に長期に台閣筆頭の座。

ふじわらのおつぐ

蝦夷反乱始・ 774＝ 母は伊勢直大津の女を母に、 式家藤原百川の長男に生まれる。

桓武天皇即位 781＝ 7歳：

・ ・ ・ ・ ・ 783＝ 9歳：

父百川が桓武天皇擁立の功臣で政治的能力に秀で中心的官僚だったため、早くから特別の恩寵を受け、

蝦夷征伐始・ 788＝14歳： 桓武自ら加冠をし、正六位上内舍人に任じた。同時に父の恩により封150戸を与える旨の勅がだされたのを皮切りに、非常にめぐまれた官僚生活を送り、

・ ・ ・ ・ ・ 791＝17歳： 従五位下・侍従、

・ ・ ・ ・ ・ 792＝18歳：

平安京築造始 793＝19歳： 中衛少将、

平安京遷都・ 794＝20歳：

・ ・ ・ ・ ・ 796＝20歳： 常陸介・内康頭を兼ね、次いで衛門佐に遷任、

田村麻呂將軍 797＝21歳： 内蔵頭を経て衛門督に任ぜられ、次いで出雲守を兼ね、

・ ・ ・ ・ ・ 798＝22歳： 造西寺長官を兼任、

蝦夷地平定・ 801＝27歳： 右衛士督に転じ、

胆沢城設置・ 802＝28歳： *桓武天皇のはからいで、平安初期では最も若い参議となるなど急速な昇進を遂げた。

804＝30歳： 兼山城守、

大事業中止・ 805＝31歳： *菅野真道との<天下の徳政>相論で、平安京の造営と蝦夷征討の中止を主張し、桓武の認めるところとなる。民生と地方政治の安定に努め、観察使制も緒嗣が推進したとされる。

桓武天皇没・ 806＝32歳： 兼但馬守。同年の観察使設置に伴い山陰道観察使・畿内観察使に任ぜられ、

伊予親王の変 807＝33歳： 畿内諸国の勢力の停止を献策。兼左大弁、

・ ・ ・ ・ ・ 808＝34歳： 兼刑部卿から東山道観察使兼陸奥出羽按察使になると、軍毅職田の給付、国司鎮官の年糠春運と担夫への運糠賃加給などを献策、

菓子の変・ 810＝36歳： 右兵衛督に任ぜられ美濃守を兼ね、次いで右衛士督(右衛門督)に遷任。

・ ・ ・ ・ ・ 812＝38歳： 近江守、

凌雲集・ ・ ・ 814＝40歳： 宮内卿、

・ ・ ・ ・ ・ 816＝42歳： 河内守を兼ね、

・ ・ ・ ・ ・ 817＝43歳： 中納言、

文華秀麗集・ 818＝44歳： 民部卿を兼ね、

金剛峰寺・ ・ 819＝45歳：

満濃池・ ・ ・ 821＝47歳： 大納言、

最澄没・ ・ ・ 822＝48歳： 従二位・皇太子博となる。観察使の経験に基づき、駅戸への借貸・口分田給付による駅制の維持を、

嵯峨上皇・ ・ 823＝49歳： 妹旅子の生んだ淳和天皇即位の大嘗会にあたっては、人民の疲弊を考え冗費をのぞくべきであると主張するなど、現地官人の待遇改善や民生安定策を多く発議し、兼東宮博。

・ ・ ・ ・ ・ 824＝50歳： 賢徳の人を登用することを奏上するなど、平安初期の地方政治を推進した「良吏」の代表的人物であった。

桓武平氏始・ 825＝51歳： 右大臣に任ぜられ、

・ ・ ・ ・ ・ 826＝52歳： *冬嗣が死去し、以後17年間にわたり台閣筆頭の座を占める。

・ ・ ・ ・ ・ 828＝54歳：

・ ・ ・ ・ ・ 832＝58歳： 左大臣となり、

・ ・ ・ ・ ・ 833＝59歳： 正二位に叙せられた。

遣唐使再遭難 837＝63歳：

承和の変・ ・ 842＝68歳：

・ ・ ・ ・ ・ 843＝69歳： 老衰を理由に致仕を請い、没した。